

研究だより

寒河江市立三泉小学校
令和7年12月3日（水）

NO.7

第1学年「ひき算」(授業者:岸未侑先生)

◎成果

- ・ホワイトボードを使いながら、自分の考えを表現したり、友達に説明し合ったりすることで、考えを広げ、自らの考えを深めることができた。
- ・「10といくつ」の数の見方は、前時まで繰り返し行っていたため、理解することができていた。
- ・子ども同士の関わり方が良かった。対話でき、何でも話せる雰囲気になっていた。

○課題

- ・なぜ10をつくるのか、10から引くことのよさをおさえるとよかった。子どもに任せすぎた面もあったため、問い返しがあるとよい。
- ・前時との違いをはっきりさせた方がよい。前時の計算が使える見通しをもつことで、本時につながる。
- ・子どもから出た減々法は、次時につながるため価値づけた方がよい。
- ・確実に身に付けるためには、机で発表の後に全体で確認した方がよい。

第6学年「比例の関係をくわしく調べよう」(授業者:和泉景子先生)

◎成果

- ・自分に合う学習方法や工夫を選択
「誰と学ぶのか」「どのように学ぶのか」などを選択することで、自分にあった方法でよく考えながら取り組むことができた。一人だと分からない児童も、友達と一緒にやって解決したり、途中からは一人でやったり、様々な方法を試して変えながら取り組めたので良かった。
- ・学びのプランを使って、見通しをもって学習すること
学習の流れを説明するだけでなく、実際に教科書をじっくり見て、どんな問題があるのか、大切なものは何か（表やグラフなど）を、確かめることができた。また、「どんな力がつくのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を児童と共有することで、具体的なイメージができて、次時からの意欲につながると感じた。

○課題

- ・タブレットの活用について
自分の考えを紙に書けたら写真を取り、タブレットで他者参照できるように仕組んだが、説明を書く段階でけっこう時間がかかり、見ながらの交流は難しかった。そもそも考えを書くツールとして、タブレットを使用し、かいているところをリアルタイムで見ながら使えるようにしたい。

学びをつなげよう！

今回の事後研の三浦登志一教授のご指導の中で、「対話」の捉えについてお話がありました。1つ目は『対話』に関する考え方の整理について、2つ目は「学校研究の視点の再構築」についてです。以下にまとめました。

(1) 「対話」に関する考え方の整理

三浦登志一教授は、「対話」に関する考え方を以下のように述べられました。

○研究の主軸：「子どもと子どもの対話」を中心に置く

- 子どもと子どもの1対1の関係を基本にすること
- 子どもが他の子の声に応じていく「返答の連鎖」があること
- 「聴き合う」関係であること
 - ・気づきや疑問がスタート
 - ・気付いていないことを発見する
 - ・相手の言葉を受けて生まれた気づきや疑問を話すこと

本校では、「対話」について以下のように捉えています。

仲間との対話	<ul style="list-style-type: none">□子どもが他の子どもの声に応じていくこと【返答の連鎖】□仲間の言葉を聴いて気付いていないことを知ること□聴き合うこと：気づきや疑問を伝え合うこと
自分との対話	<ul style="list-style-type: none">□着目している根拠や理由は正しいか考えること□課題の解決をどのように表現するか考えること□仲間の考えと自分の考えをすりあわせること□自分自身の学びを振り返ること
教材との対話	<ul style="list-style-type: none">□使える既習事項を思い出すこと□どこに着目するとよいのかを探ること□具体物や図などを用いて解決の方向を探ること

「仲間」「自分」「教材」の3つの対話のうち、「仲間」との対話が、対話の〈核〉になるとのことでした。もちろん「自分」「教材」との対話を通して考えを広げ深めることも大切です。しかし、「仲間」との対話を通してどのように考えを広げ深めさせられるか、授業中子どもたちは「仲間」との対話を通して考えを広げ深められているかについて、授業者が考え見取っていくことが大切になってくるようです。

(2) 学校研究の視点の再構築

本校の学校研究における研究の視点は、以下の3つです。

- 〈視点1〉 対話を通し、自らの考えを広げ深めるための手立て
- 〈視点2〉 自分に合う学習方法や工夫を選択・決定して学びを深めるための手立て
- 〈視点3〉 目標や見通しを考えて粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるための手立て

三浦登志一教授は、以下の表のように、それぞれの視点において「対話」の要素が考えられることを述べられました。

			今回の研究授業で見られた場面
視点 ①	仲間	□聴き合うこと：気付きや疑問を伝え合うこと	①
	自分	□仲間の考えと自分の考えをすりあわせること／伝えること	②
	教材	□着目している根拠や理由は正しいか考えること	
視点 ②	仲間	□課題を解決するための相手や形態を選ぶこと	③
	自分	□これまでの方法や相手・形態の良さを思い出すこと	④
	教材	□課題を解決するための材料・方法を選ぶこと	⑤
視点 ③	仲間	□仲間の良さについて考えたり伝えたりすること	
	自分	□自分自身の学びを振り返ること	⑥
	教材	□具体物や図などを用いて解決の方向を探ること	

(右の「今回の研究授業で見られた場面」の部分は筆者加筆)

上の表を踏まえて、今回の研究授業を振り返ると、子どもたちの様々な「対話」の場面が見られました。

①〈視点①〉 仲間 聴き合うこと：気付きや疑問を伝え合うこと



第1学年

「14-8」の計算の仕方をホワイトボードに書き、友達に伝えています。完璧な説明でなく、つまずきながらも自分の考えを伝え、相手の考えを聴き合っています。

②〈視点①〉 自分 仲間の考えと自分の考えをすりあわせること／伝えること



第6学年

はじめは、ノートに自分の考えを自力で書いています。その後、友達のもとに行き、仲間の考えと自分の考えをすり合わせています。仲間と対話をしていると同時に、自分と対話をしているともいえます。

③〈視点②〉 仲間 課題を解決するための相手や形態を選ぶこと



第6学年

課題を解決するために、左の写真の○の児童のように一人で考える児童もいれば、○の児童のように仲間と考える児童もいます。また、解決するための相手も児童が自分で選んでいます。

④ <視点2> 自分 これまでの方法や相手・形態の良さを思い出すこと



第6学年

本時の課題を解決しようと、前回の自分のノートを振り返り、これまでの解決方法を活かさないか考えています。

⑤ <視点2> 教材 課題を解決するための材料・方法を選ぶこと



第6学年

紙の「厚さ」と「重さ」のどちらを使って 300 枚の紙をはかりとるか考えています。右の写真の○の児童は「厚さ」を使い、○の児童は「重さ」を使って考えています。

⑥ <視点3> 自分 自分自身の学びを振り返ること



第1学年

この時間の自分の学習の振り返りをしています。◎○△で振り返り、なぜそうなったのかを発表しました。

今回の三浦登志一教授による「対話」の捉えに関するお話を受けて、今後も「対話」についてみなさんと考えていければと思います。